

2024年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年7月10日

上場会社名 株式会社コシダカホールディングス 上場取引所 東
コード番号 2157 URL <http://www.koshidakaholdings.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 腰高 博
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 土井 義人 (TEL) 0570-666-425
四半期報告書提出予定日 2024年7月11日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年8月期第3四半期の連結業績(2023年9月1日~2024年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第3四半期	46,384	16.0	7,047	18.3	7,801	27.0	5,367	△21.6
2023年8月期第3四半期	39,981	47.9	5,955	356.4	6,143	46.4	6,843	175.5

(注) 包括利益 2024年8月期第3四半期 5,392百万円(△20.5%) 2023年8月期第3四半期 6,783百万円(194.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第3四半期	65.84	60.36
2023年8月期第3四半期	83.94	76.96

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第3四半期	60,248	29,645	49.2
2023年8月期	57,007	25,394	44.5

(参考) 自己資本 2024年8月期第3四半期 29,637百万円 2023年8月期 25,385百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年8月期	—	5.00	—	7.00	12.00
2024年8月期	—	7.00	—	—	—
2024年8月期(予想)	—	—	—	11.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	62,728	14.8	9,278	21.0	9,939	28.0	6,753	△5.0	82.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 ー社(社名)ー 、除外 ー社(社名)ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年8月期3Q	82,300,000株	2023年8月期	82,300,000株
2024年8月期3Q	767,377株	2023年8月期	767,376株
2024年8月期3Q	81,532,623株	2023年8月期3Q	81,532,668株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信【添付資料】P. 6「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	4
(1) 経営成績に関する説明	4
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
第3四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	10
第3四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ウクライナ戦争他複数地域での政情不安定化等を背景に、従来からのエネルギー・食料品の供給不安に、国際物流のコストアップが加わり、物価は高止まりの状態となりました。国内物価に影響を与える為替レートは日米金融政策の転換タイミングを覗いつつ、円安水準で一進一退の状況が続きました。

一方で、インバウンド観光客が戻り、大手企業先行とはいうものの給与水準引き上げ傾向を背景に、物価の安定的上昇につながる可能性も見えてきております。

各セグメントの業績は次のとおりとなりますが、第1四半期連結会計期間より、温浴事業セグメントについては、同セグメントの主要施設である東京健康ランドまねきの湯閉店に伴う温浴事業の規模縮小により、その他事業セグメントの一部としました。また、従来カラオケ事業セグメントに区分されていたカラオケサービスを提供していない純飲食店である銀だこハイボール4店舗、カフェエクラ1店舗等の店舗もその他事業セグメントに集約する形としました。

以下の前年同期比較については、前年同四半期連結累計期間の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

各セグメントの業績は次の通りであります。

[カラオケ]

主力のカラオケ事業では、当第3四半期連結累計期間においても積極的出店を継続し、出店余地の大きい近畿・中京地区の16店舗を含む43店舗を開設した他、既存店の機器・設備等の改善にも取り組みました。一昨年末以降、市場動向に合わせ機動的にプライシングを進めた結果、客単価は計画を下回ったものの、客数では計画を上回り、売上高はほぼ計画線にて推移いたしました。

また、中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」の実現に向け、カラオケ以外のエンターテインメントの提供、コンテンツコラボの積極的展開、採用・教育体制の拡充を進めた他、新規エンターテインメント及び各種業務効率化に向けたDX施策の開発・導入準備を進め、新たなPER (Private Entertainment Room) 施策として「ONEREC VK」を一部店舗にてテスト導入いたしました。組織体制強化の一環として給与水準の引き上げを含む人事制度の刷新 (Koshidaka Workstyle Innovation Plan) も行っております。

海外においても、前期再開した東南アジアでの新規出店を継続し、マレーシアに3店舗、タイ、インドネシアにそれぞれ1店舗をオープンいたしました。

当第3四半期連結累計期間末のカラオケセグメントの国内店舗数は、前連結会計年度末比38店舗増加し658店舗、海外店舗数は同5店舗増の4か国22店舗 (韓国4店舗、マレーシア13店舗、タイ3店舗、インドネシア2店舗) となりました。

以上の結果、カラオケセグメントの売上高は448億87百万円 (前年同期比18.3%増)、セグメント利益は81億4百万円 (同13億2百万円増益、19.1%増) となりました。

[不動産管理]

主要物件である「アクエル前橋」、「フルーレ花咲ビル」とも期初よりほぼ満床にて推移いたしました。一方、前第3四半期連結会計期間において、自社物件「スポーツ名古屋」を譲渡したことから該当収益がなくなったこと、また新規取得案件の経費などが発生しております。

以上の結果、不動産管理セグメントの売上高は11億54百万円 (前年同期比2.0%増)、セグメント利益は60百万円 (同1億42百万円減益、70.2%減) となりました。

[その他]

第1四半期連結会計期間に「東京健康ランドまねきの湯」を閉店したことから該当収益がなくなっております。一方カラオケ事業からその他事業にセグメント移動をした飲食店舗5店舗の収益は改善しております。

以上の結果、その他セグメントの売上高は6億51百万円 (前年同期比40.1%減)、セグメント損失は45百万円 (赤字拡大) となりました。

以上により、当社グループ (当社及び連結子会社) の当第3四半期連結累計期間の売上高は463億84百万円 (前年同期比16.0%増)、営業利益70億47百万円 (同18.3%増)、経常利益78億1百万円 (同27.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は53億67百万円 (同21.6%減) となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ24億77百万円減少し98億96百万円(同比20.0%減)となりました。これは主に、現金及び預金が35億27百万円減少した一方、流動資産のその他が10億27百万円増加したことなどによるものです。

有形固定資産は38億53百万円増加し358億85百万円(同比12.0%増)となりました。これは主に、新規出店に伴い建物及び構築物(純額)が36億1百万円増加したことなどによるものです。

無形固定資産は1億42百万円増加し6億53百万円(同比28.0%増)となりました。

投資その他の資産は17億21百万円増加し138億11百万円(同比14.2%増)となりました。これは主に、敷金及び保証金が5億34百万円、投資有価証券が4億80百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

固定資産の総額は、57億17百万円増加し503億51百万円(同比12.8%増)となりました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ32億40百万円増加し602億48百万円(前連結会計年度末比5.7%増)となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ6億50百万円減少し133億13百万円(同比4.7%減)となりました。これは主に、未払金が3億22百万円、未払法人税等が4億43百万円、流動負債のその他が1億7百万円、それぞれ減少した一方、預り金が2億41百万円増加したことによるものです。

固定負債は3億60百万円減少し172億88百万円(同比2.0%減)となりました。これは主に、長期借入金が10億45百万円減少した一方で、資産除去債務が6億71百万円増加したことなどによるものです。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、10億10百万円減少し306億2百万円(同比3.2%減)となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ42億51百万円増加し296億45百万円(同比16.7%増)となりました。これは主に、利益剰余金が42億26百万円増加したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間の業績発表時に上期実績の予想との差異分を上方修正した業績見通しを維持し、2024年8月期通期の連結業績につきましては、売上高627億28百万円（前連結会計年度比14.8%増）、営業利益92億78百万円（同21.0%増）、経常利益99億39百万円（同28.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益67億53百万円（同5.0%減）を見込んでおります。

なお、当社では従来より中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」（Entertainment Infrastructure Plan）を掲げ、①店舗網の拡充とカラオケルーム数の拡大、②各種エンターテインメントの提供、③人財の採用と育成の3点を重点課題と位置づけております。

重点課題に向けた取組みとして、a)高度人財の積極的な採用と永続的な成長を維持しうる組織体制づくり、b)PER（Private Entertainment Room）を拡充するための、DXソリューションを活用しリアル・デジタルを融合させた“場所・空間の制約を超えたエンタメ体験価値”の創造による既存のカラオケにとらわれない新たな顧客体験の創出、c)新たな収益の基盤となる業態開発、の3点を重要施策と位置付け、企業価値向上に向けて各種施策を推進しておりますが、2024年8月期におきましても各種業務効率化施策の他、新たなPER施策としての「ONEREC VK」の導入など、具体的なDX施策の導入を進めております。

なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,437,076	4,910,074
受取手形及び売掛金	947,213	981,478
商品	169,363	185,184
原材料及び貯蔵品	384,959	356,607
その他	2,438,031	3,465,973
貸倒引当金	△2,575	△2,588
流動資産合計	12,374,069	9,896,729
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	22,587,377	26,188,758
車両運搬具及び工具器具備品（純額）	2,792,752	2,969,510
土地	6,627,123	6,713,743
建設仮勘定	25,029	13,552
有形固定資産合計	32,032,282	35,885,563
無形固定資産		
のれん	1,290	542
ソフトウェア	364,271	536,647
その他	145,345	116,714
無形固定資産合計	510,907	653,904
投資その他の資産		
投資有価証券	288,714	769,617
関係会社株式	10,404	184,194
長期貸付金	2,205,026	2,174,383
長期前払費用	603,846	669,231
敷金及び保証金	7,507,557	8,042,040
繰延税金資産	2,068,785	2,131,945
その他	151,916	427,497
貸倒引当金	△745,706	△586,969
投資その他の資産合計	12,090,543	13,811,941
固定資産合計	44,633,733	50,351,410
資産合計	57,007,803	60,248,139

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	644,739	610,408
1年内返済予定の長期借入金	1,911,240	1,961,240
未払金	2,785,751	2,462,867
未払費用	1,610,478	1,702,845
未払法人税等	2,262,994	1,819,912
賞与引当金	347,162	220,299
預り金	263,142	504,679
その他	4,138,895	4,031,593
流動負債合計	13,964,404	13,313,847
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	4,000,000	4,000,000
長期借入金	6,937,210	5,891,280
繰延税金負債	690,852	673,436
資産除去債務	5,137,733	5,808,797
その他	883,089	914,988
固定負債合計	17,648,884	17,288,502
負債合計	31,613,289	30,602,350
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,070,257	2,070,257
資本剰余金	3,302,786	3,302,786
利益剰余金	20,455,244	24,681,778
自己株式	△105,741	△105,742
株主資本合計	25,722,546	29,949,079
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47,576	149,661
為替換算調整勘定	△384,231	△461,574
その他の包括利益累計額合計	△336,654	△311,912
新株予約権	8,622	8,622
純資産合計	25,394,514	29,645,789
負債純資産合計	57,007,803	60,248,139

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年9月1日 至2024年5月31日)
売上高	39,981,281	46,384,798
売上原価	30,004,932	34,301,136
売上総利益	9,976,348	12,083,662
販売費及び一般管理費	4,020,742	5,035,931
営業利益	5,955,606	7,047,730
営業外収益		
受取利息及び配当金	31,016	14,469
為替差益	221,764	196,068
貸倒引当金戻入額	—	51,773
解約金収入	—	504,715
その他	71,610	173,122
営業外収益合計	324,391	940,149
営業外費用		
支払利息	16,475	25,258
貸倒引当金繰入額	92,223	—
支払家賃	—	105,423
その他	28,255	55,416
営業外費用合計	136,954	186,098
経常利益	6,143,043	7,801,782
特別利益		
固定資産売却益	4,333,327	—
特別利益合計	4,333,327	—
特別損失		
固定資産除却損	52,188	26,591
減損損失	131,364	120,085
投資有価証券評価損	8,023	—
特別損失合計	191,575	146,677
税金等調整前四半期純利益	10,284,795	7,655,104
法人税、住民税及び事業税	2,484,597	2,412,742
法人税等調整額	956,725	△125,628
法人税等合計	3,441,323	2,287,113
四半期純利益	6,843,472	5,367,991
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,843,472	5,367,991

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)
四半期純利益	6,843,472	5,367,991
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,966	102,085
為替換算調整勘定	△69,490	△77,342
その他の包括利益合計	△59,524	24,742
四半期包括利益	6,783,947	5,392,733
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,783,947	5,392,733

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	カラオケ	不動産管理	その他			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	37,935,712	173,723	1,087,238	39,196,674	—	39,196,674
その他の収益	—	784,606	—	784,606	—	784,606
外部顧客への売上高	37,935,712	958,330	1,087,238	39,981,281	—	39,981,281
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	173,054	—	173,054	△173,054	—
計	37,935,712	1,131,385	1,087,238	40,154,336	△173,054	39,981,281
セグメント利益又は損失(△)	6,802,262	203,541	△24,673	6,981,130	△1,025,524	5,955,606

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,025,524千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失及びのれん等の重要な変動について、該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	カラオケ	不動産管理	その他			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	44,887,734	207,655	651,471	45,746,861	—	45,746,861
その他の収益	—	637,936	—	637,936	—	637,936
外部顧客への売上高	44,887,734	845,592	651,471	46,384,798	—	46,384,798
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	308,447	—	308,447	△308,447	—
計	44,887,734	1,154,039	651,471	46,693,245	△308,447	46,384,798
セグメント利益又は損失(△)	8,104,503	60,716	△45,456	8,119,763	△1,072,032	7,047,730

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,072,032千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失及びのれん等の重要な変動について、該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、中期経営ビジョンで掲げている戦略施策を加速・強化すること、また資源配分に係る意思決定、業績管理及びシナジー効果等の評価を適切に行うために、事業活動の実態を適切に表すよう経営管理区分の見直しを行い、温浴事業セグメントについては、同セグメントの主要施設である東京健康ランドまねきの湯を2023年9月3日にて閉館したことにより、金額的重要性が乏しくなったこと踏まえ「その他事業」とすること、カラオケ事業セグメントについても、同セグメントに含まれているその他業態の店舗(注)1を「その他事業」に集約、変更することと致しました。

また前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(注)1 カラオケ事業に含まれているその他業態の店舗: 銀だこハイボール、カノップ、カフェエクラ

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。